

平山如庆沙门叶溪游館二

平成16年11月1日発行



開館記念式典

小沢澄夫 長坂町長

武大偉 元在日中国大使

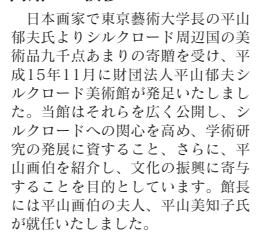
河合隼雄 文化庁長官 平山美知子 当館館長

平山郁夫

=フランソワ・ジャリージュ 野口英一 ギメ国立東洋美術館長 山梨日日新聞·山梨放送社長

天野建 前山梨県知事

開館のご挨拶



美術館は二棟の施設より構成され ています。本館は平成16年7月に新 しく竣工いたしました。敷地面積約 1,460平方メートル、延べ床面積 1,097平方メートルで、二階にはエ ントランスホールと平山画伯の作品 展示室が設けられ、一階にはガンダ ーラ仏やモザイク画などシルクロー ドに関連した美術品が陳列されてい ます。また、これまで親しまれてま いりました八ヶ岳シルクロードミュ ージアムの建物を当館別館として引 き継ぎました。別館ではシルクロー

ドの美術品だけでなく染織品や民芸 品も展示していく予定です。

平成16年7月17日、当館の開館式 が挙行されました。平山画伯をはじ め河合隼雄文化庁長官、武大偉元在 日中国大使、ジャン=フランソワ・ ジャリージュ国立ギメ東洋美術館長、 小沢澄夫長坂町長など各界より多数 のご臨席を賜り、大変な賑わいでし た。式典後には東儀秀樹氏による雅 楽演奏会も催され、好評を博しまし た。翌18日の一般公開初日には900 人を超える方々が入館され、その後 も皆様に足をお運びいただき、9月2 日には早くも入館者が一万人を数え ました。

開館後四ヶ月が経過し、ご尽力を 賜りました関係者各位に順調な船出 をご報告申し上げ、あらためて深謝 の意を表すとともに、ご入館くださ いました皆様に厚く御礼申し上げま す。今後もわかりやすく質の高い展 示に努めてまいりますので、お引き 立てのほど宜しくお願い申し上げま す。







蒐集日和(1)

館長 平山美知子

平山と私は1955年結婚しました。平山の月 給、扶養家族(私) 手当を入れて1万1千円か ら始まった私達の生活は決して豊かなものでは ありませんでしたから、将来美術館を作るなど という事は考えたこともありませんでした。中 板橋(なかいたばし:東京)のうす汚れたアパ ートは六畳一間で台所もありませんでした。三 十世帯に井戸二つという共同生活の様な日々の 中で、私は学校では教えられないよい勉強をさ せてもらいました。それから始まった約五十年 を振り返ってみると、人と人とのふれあい程大 切なものはなかったと思っています。平山や私 が卒業した東京美術学校(私達の翌年より東京 芸術大学となる) は今のコンピューターでシス テム化された巨大な大学とは異なり全校千人足 らずの寺子屋の様な学校でしたから上級生も下 級生も大体顔は覚えていました。そして先生は 卒業後も生涯の先生でした。学課の先生もずっ と私達の先生で絵の事旅の事に助言をして下さ り、人生の指針になる様な人を次々に紹介して 下さったりしたのです。

人と人との交流から始まったコレクションの 話を一つしますと、鎌倉に土地を買った事を知られた経済界の今里広記氏がお婿さんの杉山隆 先生に設計を頼むように云われました。芸大の 上級生でもあり、すっかりおまかせしたのです が、出来上がった家は成増(なります:東京) の安普請とは違い、立派な家だったのです。私 達は鎌倉の家の爺やと婆やみたいなものだと話 し合ったものです。その時建築を請け負った水 澤工務店は其の後もずっと家の事は面倒をみて 下さり、この小荒間の美術館も作って下さいま した。

入館者一万人突破!



加藤さん親子と当館館長

鎌倉に移り住んで間もなく、平山がアルバイトとして金屏風に昔風の絵を描かせてもらった事のある骨董商の方が、この様な立派な家に住むならと、それにふさわしい中国の庫木吐拉(クムトラ)千仏洞からでた仏陀頭部を持ってくないました。当時の私達にはふさわしくない立派なものだったのです。応接間の飾り棚にそれを置いた時、私達はこの仏頭を持つにふさわしい様にならなければと思ったものです。それ迄に骨董らしいものはいくつかありましたが、此れが我が家のコレクション第一号になったと思います。そしてその仏頭の出た中国新疆省の庫木吐拉に是非行ってみたいと思い、1986年9月念願を果たしました。

山梨県の小荒間といった私達には何の御縁もない様な処に美術館を建て、平山の絵と共にコレクションを展示するという事もきっと不思議に思われると思いますが、決して無縁ではなかったのです。毎年夏と冬の休暇は海外旅行に出て留守にする私達の子供達を、私の兄は会社の寮に連れて行ってくれていたのですが、其処がここ小荒間だったのです。



菩薩像頭部 7~8世紀 クムトラ

去る9月2日、当館の来館者が一万人を数えました。一万人目は静岡県浜松市からお越しになった加藤実子さん、朝子さん親子です。加藤さんには記念品として平山郁夫画伯のサインが入った今回の特別展図録、さらに、平山画伯による陶板画「橘富士」が贈呈されました。また、9,999人目と1,0001人目にご来館された方々にもそれぞれ平山画伯のサイン入り特別展図録が贈られました。

平成17年展覧会開催予定

1~3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

閉館

4/1-7/3 シルクロードの仏たち 9/2**8**-11/27 7/16-11/27 欧州**絵巻~**イタリア編~ アフガニスタン展(仮題)

閉館

当美術館は本年(2004年)11月30日(火)より2005年3月末日まで閉館されます。2005年は4月1日に開館し、「シルクロードの仏たち」展(7月3日まで)、7月からはアフガニスタン展などを開催します。4月と8月には展覧会にあわせた講演会を予定しております。詳細はホームページをご覧いただくか、美術館事務局 (0467-25-0251) までお問い合わせ下さい。

「シルクロードの仏たち」展

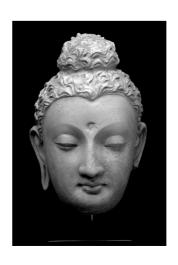
インド北東部に興った仏教は、現在のパキスタン北西部、アフガニスタンと国境を接するガンダーラ地方においてはじめて人の姿で表わされ、仏像が誕生したといわれます。仏陀像や菩薩像は中央アジアを経て中国、朝鮮半島、日本へ、あるいはインドからチベットや東南アジアへと伝播し、それぞれの地で、王朝や仏教文化を育んだ民族たちの価値観や理想像を重ね合わせながら何百年にもわたって作られてきました。こうしてシルクロードの沿道に生まれ、幾多の歴史や盛衰を目撃してきた仏陀像・菩薩像を中心に展示します。

展示品紹介



仏陀立像 5~6世紀 パキスタン

類例が僅かしか知られていない青銅製仏陀立像。この連続する突起物で周縁を装飾した身光背と同じものがアフガニスタンのバーミヤン石窟にもみられる。



菩薩または天人像壁画断片 7世紀 キジル

天山南路に位置するキジル 千仏洞からドイツのル・コッ ク隊が将来した壁画断片の一 部。

菩薩像頭部 7~8世紀 クムトラ

シルクロード天山南路の 要衝クチャに近いクムトラ 千仏洞からの大谷探検隊に よる将来品。平山コレクションの「第1号」 (左頁、蒐集日和1参照)

仏陀頭部 3~4世紀 パキスタン

粘土に漆喰を混ぜて造像 された仏陀像の頭部。端正 な顔が特徴的である。

総合学習共同プログラム始まる



熱心に写生する須玉小学校生

10月26日(火)、休館日を利 用して、地元小学校の一つ須 玉小学校の5年生76名が当館 を訪れました。学芸員による 説明を受けた後、各自お気に 入りの作品を題材に、写生し たり、詩を書いてもらいました。 平山郁夫作品をじっくり見つ めて描く子、「三聖人 平和の 祈り」を切り絵にする子、床 に坐り込んでシルクロード・ コレクションを熱心に写生す る子など様々でしたが、時間 が足りないほど一生懸命に取 り組んでいた姿が印象的でした。 また、学芸員やスタッフに質 問する子供たちも多く見られ、 まずは成功だったと自負して おります。

今後も近隣の小学校と協力してこのプログラムを継続していく予定でおります。 (学芸部)

「友の会」の御案内

平成17年(2005年)4月に 平山郁夫シルクロード美術 館友の会が発足・活動を開 始いたします。

詳細の発表は平成16年 12月中、会員の募集開始 は翌17年2月中を予定して おります。ホームページを ご覧いただくか、美術館へ お問い合わせ下さい。

(友の会スタッフ)

ミュージアムショップの御案内

本館2階、別館1階にそれぞれショップがあります。当館の展覧会図録や他会場での当館所蔵品展、平山郁夫作品展図録およびシルクロード関連書籍など各種取り揃えております。また当館所蔵品をもとに制作した絵葉書、一筆箋、Tシャツ、ロゴマークのバッチなどオリジナル製品、シルクロード各国の色彩豊かな民芸品、シルクロード各国の布を使い、形や彩りを工夫した小物などがあります。

来館者の目を釘づけにしている館長・平山美知子制作のネックレスは、様々な材質の古代玉を用い、彩りやデザインを吟味しながら一つずつ糸を通して丹念に仕上げた作品で、世界に一つといえるアクセサリーです。



本館ショップ

お休処 "亜絲花" の御案内

近くには「亜絲花」(あしはな)というお休処があります・亜絲花は亜細亜の"亜"、絲綢之路(シルクロード)の"絲"から名付けられました。JR小海線甲斐小泉駅周辺には飲食店が少なく来館者およびスタッフ待望の憩いの場となっております。

営業時間は午前11時から午後4時。火曜日定休。地元の食材ををふんだんに使ったメニューが好評です。なお、営業時間およびメニューは変更される場合があります。明るく元気なスタッフが皆様のお越しをお待ちしております。



亜絲花店内



平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第1号 平成16年11月1日発行

発行●財団法人平山郁夫シルクロード美術館 〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6 Tel 0551-32-0225 URL http://www.silkroad-museum.jp